



プロジェクト名称

いくべっ！福島支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

東日本大震災から2年9か月が経過し少しずつ復興のめどが立ってきているが、まだまだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の遅れが顕著である。福島県の農家の方々は放射線を下げするために様々な努力や工夫を行っているが、世間には広く知られていないのが現状である。このことが市場に出回っている福島産の食品は安全であるのに、消費者に嫌悪されてしまう原因の一つとなっている。

そこで私たちは風評被害スポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には、様々なイベントに参加し福島産のものを販売しながら呼びかけをしたり、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。

また被災地にはライフラインが整っておらず家に帰れない人、支援の手を必要としている人がまだたくさんいるが、震災から長い時間が経ち日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで記憶の風化を止めるため、風評被害のような目に見えず長期的に対処する必要のある問題だけではなく、目に見え、かつ早急な対処を必要とする、地震や津波の被害にあった浜通り地方での実地作業も行っている。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2013年10月 1日～12月31日

○いくべっ！福島ツアー：2013年10月13日

今年も昨年に引き続き、「いくべっ！福島ツアー」を企画した。このツアーは、facebookや口コミなどで呼びかけた、多くの一般の方々に実際に福島を訪れてもらい、福島の良さ・おいしさを肌で感じていただくことで、自分たちの活動の目的の一つである、風評被害の低減を目指すことを目標として、始めたものである。事前にバスの予約やまわる場所、タイムスケジュールなどを決めて臨んだ。



(1) まるえ観光果樹園

こちらでは、なしとぶどうの果物狩りをした。実際に福島産の果物を味わっていただき、震災前と変わらない、福島産の食材のおいしさを味わっていただくことを目的とした。今回、参加者のみなさんからは「おいしいね!」という声をたくさん聞くことができ、参加者の中にはお土産として果物を購入してくださる方もいた。



まるえ観光果樹園



果樹園の方による講演



果物狩りの様子

(2) みらい百彩館んめ〜ベ

こちらは「地産地消の推進」や「消費者と生産者の交流の場作り」などを目的とした J A 直営店で、多くの福島産の農産物が並んでいる。ここでは自由に買い物をしていただく時間を設けた。ご家族やご友人などへ、土産話などで福島産の情報が伝わっていくことがここでの最大の目的であった。また、ここで販売されている農作物は、出荷者ごとに全品目放射性の全戸検査を行っており、「んめ〜ベ」の店長さんからその検査のしくみについて説明を受けた。そして簡易検査所の見学も行った。参加者の皆様には福島産の安全性について理解を深めていただけたと考えている。



みらい百彩館内



買い物の様子



簡易検査所についての説明



(3) 岳温泉

こちらでは、温泉や紅葉などの景色を楽しんでいただいてこのツアーでの疲れを癒していただくことを目的とした。しかし、当日は渋滞によるスケジュールの遅れにより滞在時間が1時間しか取れず、残念ながら温泉に入る余裕がなく、そのため簡単に入れる足湯が人気であったり、景色のところが、そこでの写真撮影が主な動きだった。



温泉街



温泉街周辺の風景



足湯

○芝浦祭：2013年11月1~3日

今年度で芝浦祭、参加三度目となる私たちは雑炊の屋台を出店した。材料である米、野菜、鶏肉はすべて福島県産であり、口にさせていただいた方からは美味しいという好評の声が聞くことができた。販売の面では、初日は準備にも手間取りこちらの予想を大きく下回る売り上げで、価格設定や呼び込みなどに改めて難しさを感じた。しかし、その反省を生かし改善することで二日目、三日目と売り上げを上げることができた。



実際に販売した雑炊



当プロジェクトの模擬店



笑顔ポスターの撮影



また昨年同様に雑炊を買ってくれた方に笑顔の写真を撮らせていただいて笑顔ポスターを作成するスマイルプロジェクトを実施した。こうして消費者の反応を形にすることによって風評被害の低減につながり、福島の一とたちの励みになると思う。

雑炊の販売の他に、以前から私たちの活動にご協力していただいている福島県会津坂下町の方に実際にお越しただいて物産展を開いた。物産展で販売した米、野菜、漬物、メロンなどすべて福島県産であり販売の際、現地の人と直接会話することによりそこに不安感は無かったように感じた。また現地の方も現在の福島県産の食材に対する消費者側の反応が見える良い機会になっていただけたと思う。



物産展



新鮮な農産物の販売



芝浦祭の様子

これらの活動により私たちの会場に来てくださった方に少しでも福島県に対する見方、考え方が良い方向に向かってくれたらと思う。その数がとても多いとは言えないかもしれないが、今後も様々な活動を通してその数を増やせるよう励んでいきたい。

○学生プロジェクト合同説明会：2013年11月12日

芝浦工業大学では、部活・サークルだけではなく、学生の企画力やマネジメント力を高めるために、「学生プロジェクト」というものがある。しかしながら、芝浦工業大学内でもその認知度が低いことが現状となっている。そこで、このような説明会を開くことで「学生プロジェクト」の認知度を向上させ、そして参加を促すことを目的としている。



説明会当日は、8 団体がそれぞれ作成したパネルを持ち寄り、ブース形式で来場者の方々に説明することで、多くの方々に私たちの活動を発信することができた。震災の記憶を風化させないためにも、このような説明会の必要性を感じた。

今回、私たちの団体には新しいメンバーの加入はなかったが、これからもこのような説明会があれば、参加していきたい。



当プロジェクトの説明風景



他団体の説明風景-1



他団体の説明風景-2

○ふくしまの goo 大会議 in 東京 : 2013 年 12 月 7 日

12月7日に日本財団ビルで行われた「ふくしまの goo 大会議 In 東京」に参加した。「ふくしまの goo 大会議 In 東京」では、福島にゆかりがある方が集まりそれぞれの思う福島についての話し合いを、福島好きを増やす・自分をもっと福島好きにするには・福島が気なる人をどう増やすか・福島の好き度をどう高めるかという目標の下、福島・東京・ネットにどんなものがあると良いのかグループになってアイディアソンと手法を用い行った。

前半はそれぞれ所属する学生団体や NPO などの紹介をした後、ディスカッションしたいテーマごと別れグループを作り、福島県で作られた野菜や豚肉を使った弁当をグループごとでいただいた。

後半はそれぞれのグループのテーマについてのアイディアを考えていった。途中で津田大介さん、馬場大治さん、菅家元志さんによる講演をはさみ、それぞれのグループで出たアイディアを発表していった。



今回このようなイベントに参加し、福島で色々な活動をしている方と話すことができ今後の「いくべっ！福島支援プロジェクト」の活動の幅を広げることができたのだと感じた。また、福島のことをより深くしり色々な側面から見ることができ福島をより好きになることができた。



ディスカッションの様子



他グループとの意見交換



福島産の弁当

今後の活動計画、目標、意気込みなど

今年も昨年同様、芝浦祭への出店や福島への日帰りツアーを通じて福島の良さや本プロジェクトの活動についての情報発信を行ってきた。現地で仕入れた情報をこちらで還元する活動は、地道に今後も続けていきたい。また昨年度にはなかった活動としてg o oとの連携が挙げられる。大手検索エンジンとの連携により、告知の面や他団体との連携の面で様々な効果が得られることが期待できる。活動の幅を広げていく、良いきっかけにしたい。

今後の主な活動として、来年の3月に「3. 1 1 講演会」を行う。来場者の方々に東日本大震災という出来事をもう一度見つめ直してもらい、震災の記憶の風化を防ぐことが目的である。福島県の浪江町から避難をしてきて現在東京東雲の公務員住宅で生活をしている方と面識があり、その方に震災当時についてのお話をして頂く予定である。また同時に福島県の農協で働いている方と農家の方もお招きして、農作物の風評被害についてのお話をして頂く。会場は本校豊洲キャンパスの教室をお借りする。

春期休業中には、情報収集もかねて現地視察に行くことを予定している。